

東日本大震災復興支援における 環境への配慮

2011年3月11日に発生した東日本大震災。UR都市機構は、発災直後から被災地へ職員を派遣し、復旧・復興活動に取り組んできました。ここでは、地域の特性を活かした復興にあわせて、被災自治体や地域の方々と連携しながら取り組んできた環境配慮の事例をご紹介します。

東日本大震災におけるUR都市機構の復旧・復興支援

復旧支援

- UR賃貸住宅の提供 (延べ970戸)
- 応急仮設住宅用地約8haを提供
- 延べ184人の技術職員を派遣



UR賃貸住宅

復旧計画策定支援など

- 2県18市町村に延べ69人の技術職員を派遣



いわきニュータウンに建設された応急仮設住宅

復興まちづくり支援

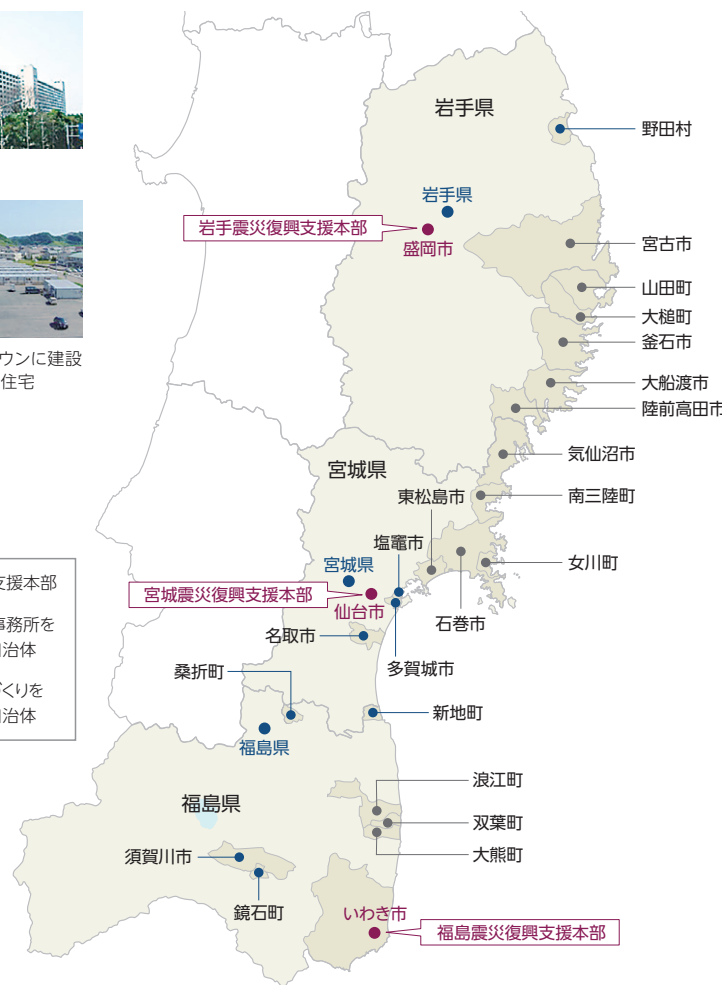
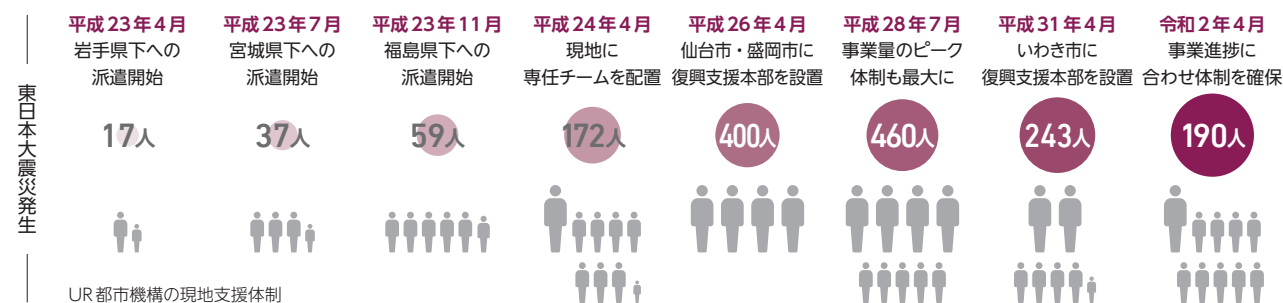
1 津波被災地域における復興支援

復興市街地整備 **1,314 ha**
災害公営住宅整備 **5,932 戸**

2 福島県の原子力災害被災地における復興支援

復興拠点整備 **171 ha**
町のニーズに応じた
■ 発注者支援 ■ 地域再生支援

復興まちづくりの支援体制



出典：「UR都市機構 東日本大震災からの復興支援（令和2年11月版）」

全体の取組は、ホームページをご覧ください。
津波被災地域での10年の歩み
<https://www.ur-net.go.jp/saigai/10years/index.html>



環境にやさしいひとづくり

地域にお住まいの方々や、新たに災害公営住宅にお住まいになる方々と一緒に、それぞれの地域での特徴を活かした暮らしの中での環境配慮活動をワークショップやイベント等を通して行うことで、震災によりバラバラになった地域コミュニティの形成の立ち上げを支援しました。

大ケロー丁目町営住宅（岩手県大槌町）

花植えを通して自然への親しみを持つ

住民の方々と一緒に花を植えるイベントを開催しました。
岩手県沿岸部で育った植物とのふれあいを通して、住民同士の憩いの場となることで、地元の自然への親しみを持ってもらえることが期待されます。



花を植える住民の方々とUR都市機構職員ら



花植えを行った広場

新門脇地区（宮城県石巻市）

若者と一緒に公園を考える

公園の計画において、地元中学生によるワークショップを開催しました。
将来を担う若者と一緒に身近な自然について考えることで、地元への愛着を持ってもらうとともに、環境意識が高まることが期待されます。

受賞歴

- 平成30年度全建賞【都市部門】
《東日本大震災に係る復旧・復興事業特別枠》
(主催：一般社団法人全日本建設技術協会)



地元中学生による公園計画の検討・模型作製



EVカーシェアリングの紹介

豊間・薄磯地区（福島県いわき市）

伐採される樹木のDNAを引き継ぐ

里山で伐採される樹木のDNAを残したいという地域住民の方々の想いを受け、どんぐりを拾い、苗木に育てて、防災緑地や公園などへの植樹を行う「どんぐりプロジェクト」を立ち上げました。
地元の自然への愛着が醸成され、次世代に引き継がれていくことが期待されます。

受賞歴

- 第38回緑の都市賞【緑のまちづくり部門】
都市緑化機構会長賞 (主催：公益財団法人都市緑化機構)



地元小学生による苗木育成



防災緑地植樹祭



自然と調和するまちづくり

緊急避難場所・避難路の整備などの災害に強いまちづくりに加えて、環境負荷を少なくする工法の選定や、省エネルギーや再生可能エネルギーの導入促進、地域に根差した住宅の建設など、環境に配慮したまちづくりを推進してきました。

高田地区・今泉地区（岩手県陸前高田市）

地域の自然や歴史を感じる公園づくり

川原川公園の整備に当たっては、地元の意向を踏まえ、かつての花見の原風景を復活させる桜の植樹、日常の中に存在した身近な自然・遊び場としての河川空間を子どもたちに継承する子どもの遊び場の整備などにより、周囲のまちなみや並走するシンボルロードと一体となった陸前高田の自然・文化・歴史を感じさせる景観形成を実現しました。



川原川公園



総延長約3kmに及ぶベルトコンベア

また、大規模な宅地の高上げが必要だった陸前高田市の基盤整備では、ベルトコンベアを導入することで、土砂搬出の工期が6年以上短縮され、ダンプカーの走行量が減ったことにより、CO₂排出量の大幅削減につながりました。

女川町中心部／女川町営運動公園住宅（宮城県女川町）

海を眺めて暮らすまちづくり

女川駅周辺では、駅前広場と女川湾を結ぶ骨格として町のシンボル軸となるプロムナードを整備しました。あわせて、海が存在を最大限に生かすために、高台住宅地には、海が見える眺望点と眺望軸を設定し、「海を眺めて暮らすまちづくり」を実現しました。



女川町中心部



女川町営運動公園住宅
撮影：沖 裕之（Blue Hours）

また、太陽光発電パネルとLED照明を設置した省エネルギーに配慮した環境性能の高いエコ住宅も整備しました。

野蒜北部丘陵地区（宮城県東松島市）

自然景観を継承したまちなみ

国の特別名勝・松島を構成する「奥松島」の一角となっている野蒜北部丘陵地区の造成に当たっては、海側から当地区の建築物が直接見えないよう南側を現況緑地として保全するなど、松島湾からの景色や主要な展望地点からの遠景に配慮しました。

また、特別名勝・松島の保存管理計画に基づき、電柱や信号柱、公共建築物の外壁などの色をダークブラウン系で統一するなどの対応を行いました。



景観に配慮した落ち着いたまちなみ



東松島市立宮野森小学校は意匠を凝らした木造建築

Fukushima Innovation Coast Framework

CO₂ 排出ゼロへの挑戦 ～水素製造拠点整備の支援～

棚塩地区（福島県浪江町）では、「福島イノベーション・コースト構想」等に基づく先端産業拠点の形成を目的とした整備が町により進められており、UR都市機構はそのための基盤整備を実施しました。同地区においては、福島水素エネルギー研究フィールドが整備され、太陽光パネルで発電した電力で水を電気分解し、CO₂を排出しないグリーンエネルギーである水素の製造を行っています。

棚塩地区（福島県浪江町）



現地の様子
(2020年3月撮影)

福島水素
エネルギー
研究フィールド
(FH2R)

